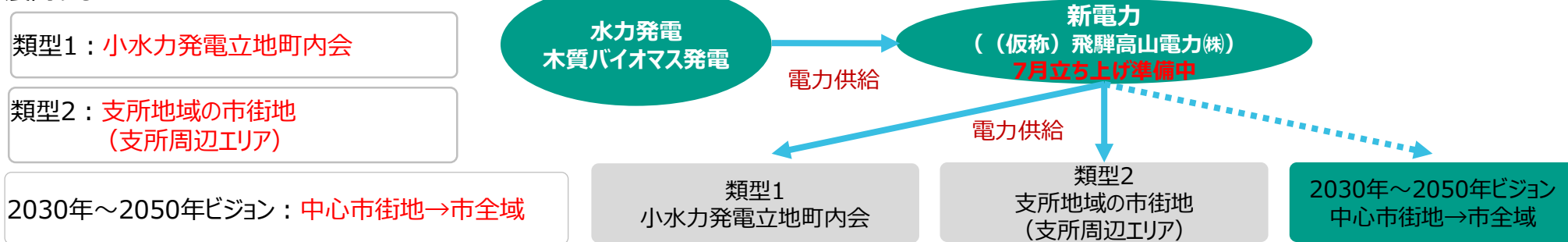


【飛騨高山モデル】市町村合併により日本一の面積を誇る高山市の自然エネルギー活用（仮） ～2050年ゼロカーボンを見据えて～（仮）

提案者：高山市、阿多粕小水力発電（株）、旗鉾小水力発電（株）、飛騨高山小水力発電（株）、阿多野郷・野麦小水力発電（株）、井上小水力発電（株）、塩屋小水力発電（株）、上青屋小水力発電（株）、久手観光開発（株）、濃飛乗合自動車（株）、奥飛観光開発（株）、名古屋鉄道（株）、飛騨高山電力（株）

エリア設定の考え方

人口減少等の課題が山積しているエリアは支所地域に点在する小水力発電立地エリアに多い。
地域課題に効果的に対処していくためには、全国に先駆けて中山間地域へ電力を供給し、発電立地町内会→市街地（支所周辺エリア）という順序で施策を展開する。



電力供給における優先順位の考え方

優先順位 1位

類型1：小水力発電立地町内会

- ・新電力会社にて電力小売りの契約を実施し、発電所の竣工を目安に順次、立地町内会に供給する。
- ・ほおのきスキー場、新穂高ロープウェイ、日和田高原は各町内会に含めて供給する。

優先順位 2位

類型2：支所地域の市街地
（支所周辺エリア）

- ・支所周辺は郵便局、公民館、小中学校等多くの主要施設が集積する地域の拠点である。
- ・2050年に市全域でゼロカーボンの道筋を描くため、先行して脱炭素する市街地（支所周辺）エリアへ電力を供給する。

優先順位 3位

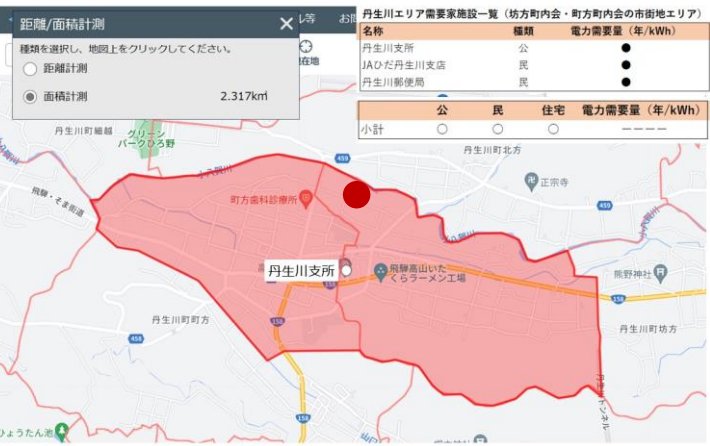
2030年～2050年ビジョン
中心市街地→市全域

- ・2050年市全域の脱炭素に向けた普及啓発の観点から本庁から供給する。
- ・本庁含め、中心市街地は、エリア指定していないため、2030年以降供給し、2050年ゼロカーボンに向けて、市全域へ電力を供給する。

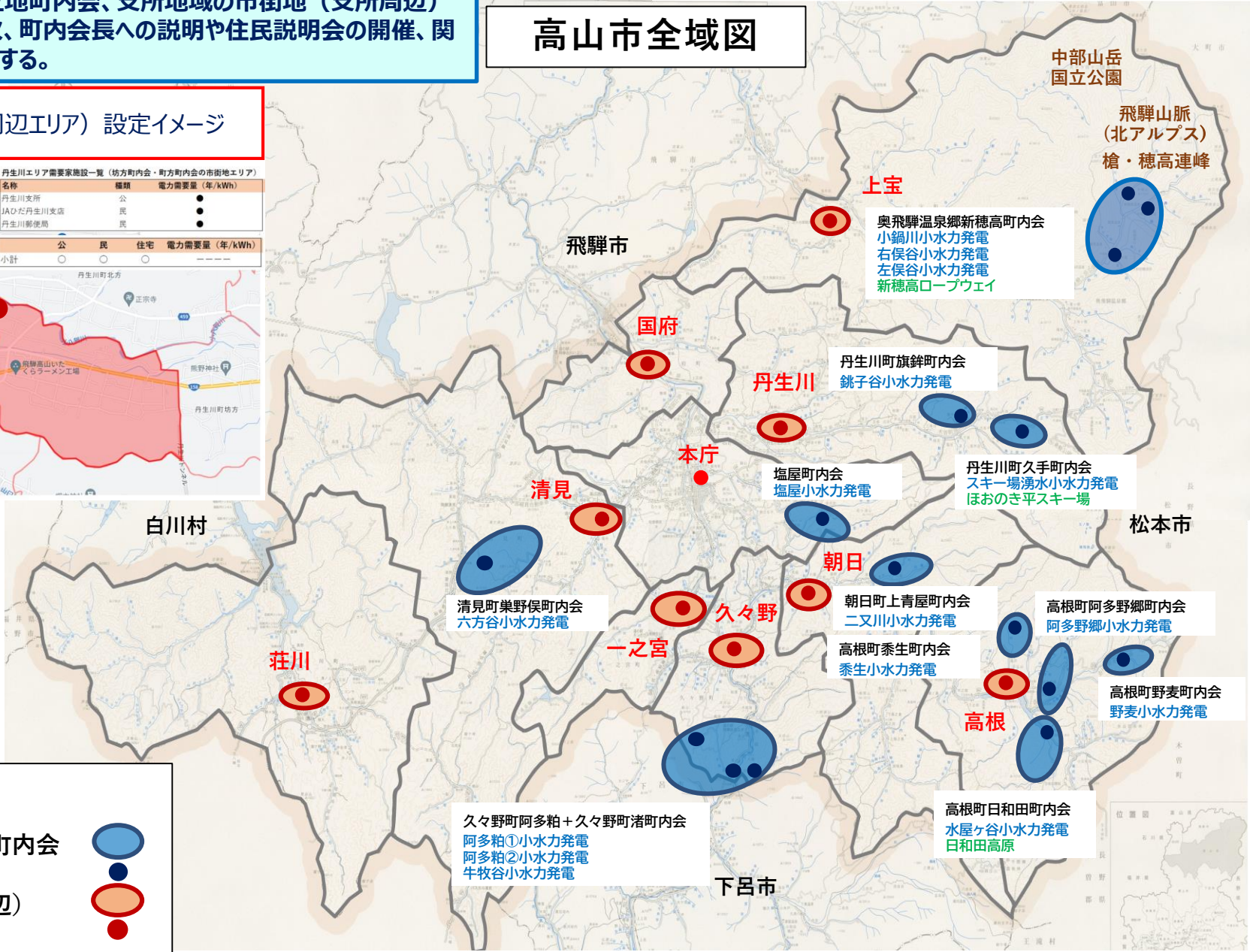
第4回脱炭素先行地域エリア設定（位置図）

小水力発電所候補地や立地町内会、支所地域の市街地（支所周辺）等の同意については、順次、町内会長への説明や住民説明会の開催、関係団体等への説明を実施する。

市街地（丹生川支所周辺エリア） 設定イメージ



高山市全域図



凡例

類型 1 小水力発電立地町内会
小水力発電所

類型 2 市街地（支所周辺）
支所